

郷土岡上の歴史・文化継承事業

報 告 書

平成 2 8 年 3 月

郷土岡上の歴史・文化継承委員会
麻 生 市 民 館 岡 上 分 館

はじめに

川崎市の「飛び地」として発展してきた岡上を、麻生区の多くの皆さんに知っていただく目的のために発足した「岡上の歴史・文化継承事業」が始まって3年目となりました。最初の2年では講座を中心とした学習を行い、3年目の今年度はその集大成としての報告書にまとめることが中心になりました。

初年度の「史・資料から学ぶ岡上の歴史」、次年度の「岡上の水と暮らし」の講座資料も本報告書に再掲してありますので、講座に参加されなかった皆様にも参考にいただけると考えます。

最終報告書を製作するにあたり、何回かの議論を経て岡上の発展を地図から掘り起こそうということになり、準備を進めてまいりました。

明治時代の地図、現在の最新式の精密機器を用いての地図等、どれも特長のあるものばかりです。

またこの報告書で焦点を当てた地図に手書きの「字切図（字限図：あざぎりず）」があります。岡上の中を字毎に区分けされ、それぞれに詳細なデータ（石高等）が記載してあります。

この報告書では、時代毎の地図と土地利用の状況、航空写真との対比をしながら岡上の発展をたどってみたいと思います。

本報告書をまとめるに当たり、「岡上に親しむ会（郷土誌会）」の皆様には、場面毎に大きなご協力を得ましたことを申し添えます。

平成 28 年 3 月

郷土岡上の歴史・文化継承委員会

代表 宮野 敏男

◇ 目 次 ◇

はじめに	1
平成25年度のあゆみ	3
第1回 岡上村は何郡だったのか？ 多摩郡or都筑郡	4
第2回 フィールドワーク 岡上の歴史散歩	5
第3回 岡上村の歩んだ道～近世から近代への歴史～	6
第4回 幕末期における岡上村の負担～官軍御用～	7
第5回 室町・戦国時代の王禅寺と東光院	8
特別講座 映像でたどる岡上の暮らしの歴史	9
岡上のどんど焼き	10
平成26年度のあゆみ	11
第1回 岡上と鶴見川	12
第2回 岡上の谷戸の自然～生きものと人がともに暮らす場所～ ..	13
第3回 フィールドワーク 岡上の谷戸散歩	14
第4回 検地帳を読む、地名を探る 一天正19年の岡上村御縄打水帳よりー	15
特別講座 写真で見る岡上今昔物語	16
写真集	17
第5回 岡上の水と暮らし	18
平成27年度のまとめ	19
明治20年代の岡上の字限図	20
明治20年代の岡上の字図、地番、面積	22
明治20年代の岡上村の彩色地図（字限図を合成した地図）	23
明治20年代の岡上の土地利用図	24
明治39年地形図	25
昭和29年地形図	26
昭和22年航空写真	27
昭和63年地形図	28
平成元年航空写真	29
平成19年地形図	30
平成20年航空写真	31
岡上の地名	32
岡上の人口	34
岡上の農業	35
岡上の橋と水車	36
あとがき	39

講座 史・資料から学ぶ 岡上の歴史

川崎市の飛び地「岡上」には、その風景とともに古くからの史・資料が残され保存されて来ました。
それらを専門家のご案内で紐解きながら、その内容や背景を学び、「岡上」の歴史を考察しました。

《 プ ロ グ ラ ム 》

回	日にち	内 容	講 師	会 場
1	平成25年 9月20日(金)	岡上村は何郡だったのか？ 多摩郡 or 郡筑郡	川崎市市民 ミュージアム 学芸員 望月 一樹	岡上分館 集會室
2	10月18日(金)	フィールドワーク 岡上の歴史散歩		岡上分館 岡上地域
3	11月15日(金)	公開講座 岡上村の歩んだ道 ～近世から近代への歴史～		麻生市民館 大会議室
4	12月6日(金)	幕末期における岡上村の負担 ～官軍御用～		岡上分館 集會室
5	平成26年 2月7日(金)	室町・戦国時代の王様寺と東光院	郷土史研究家 中西 望介	岡上分館 集會室

『 映像でたどる 岡上の暮らしの歴史 』

日にち：平成25年10月4日(金) 場所：岡上分館 集會室
語り手：岡上に親しむ会（郷土誌会）相談役 宮野 薫・島海 輝治



岡上村が多摩郡だったら、今頃、岡上は東京都になっていたかもしれない。

江戸末期の
岡上周辺村域

多摩郡

橋樹郡

都筑郡

黒川村
栗木村
片平村
上野生村
三井寺村
下野生村
早野村
三輪村
桑島村
恵田村
寺屋村
鴨志田村
岡上村

萬福寺
真光寺
広神村
三井寺
萬福寺

- 4 -

第2回 フィールドワーク 岡上の歴史散歩

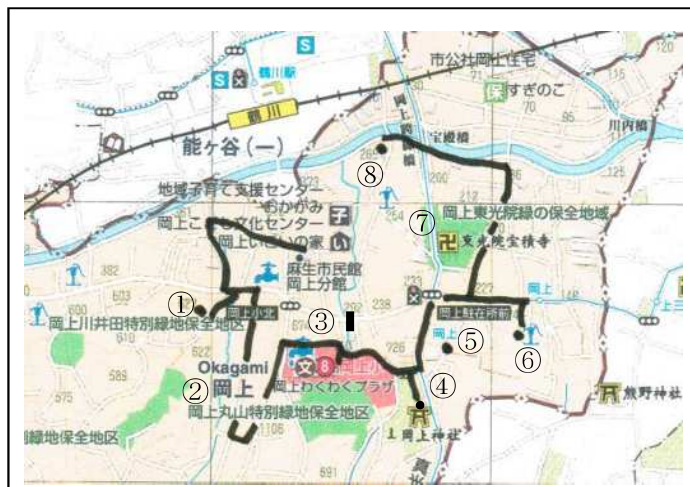
日 時：平成25年10月18日（金）

13：30～16：00

- コース：① 劔神社跡
② 自性寺谷戸
③ 岡上丸山遺跡
④ 岡上神社
⑤ 中世古道
⑥ 文永の板碑（梶家）
⑦ 東光院
⑧ 関の馬頭観音

講 師：川崎市市民ミュージアム
学芸員 望月一樹 氏

参加者：48名



講師の案内により、岡上の史跡を回り、地元の方からも説明を受けた。

① 劔神社跡

五反田橋を渡り、急な坂道を登った右側の高台が劔神社跡である。劔神社はかつて岡上村の鎮守社であり、そこに続く急坂は参道であった。岡上では「イッケ」（一家）という同族で氏神を祀っており、劔神社は「宮野イッケ」、諏訪神社は「梶イッケ」、宝殿稲荷社は「海老沢・星野イッケ」、開戸稲荷社は「横田イッケ」、日枝神社（山王社）は「山田イッケ」の氏神であった。明治42年の一村一社政策により岡上にあった五社は諏訪神社に合祀され、現在の岡上神社となった。岡上神社の木製の鳥居と社殿は劔神社から遷したという。

※現在は個人所有の畑なので、無断立ち入りはご遠慮ください。

- ② 自性寺谷戸 → ③ 岡上丸山遺跡（岡上小学校）
→ ④ 岡上神社 → ⑤ 中世古道 → ⑥ 文永の板碑（梶家）
→ ⑦ 東光院（兜 跋 毘沙門天 立像、蚕 影山 祠堂、瘡 守 稲荷）



東光院 瘡守稲荷前

→ ⑧ 関の馬頭観音

本村橋近く、関地区に建つ馬頭観音で、丸山や川井田にもある馬頭観音の中では大きいものである。天保10（1839）年建立。農耕馬の供養のために建てられたと考えられる。鶴見川の護岸工事により30メートルほど上流に移された。

岡上には川井田のセエノカミなど石造物が多いが、石造物は動かされることがあり、注意が必要である。また、鶴見川は氾濫を繰り返しており川の反対側にも岡上の地名があることから、昔の川の流れを知ることができる。

第3回【公開講座】岡上村の歩んだ道 ～近世から近代への歴史～

日 時：平成25年11月15日(金) 13:30～15:30

場 所：麻生市民館 大会議室

講 師：川崎市市民ミュージアム学芸員 望月一樹 氏

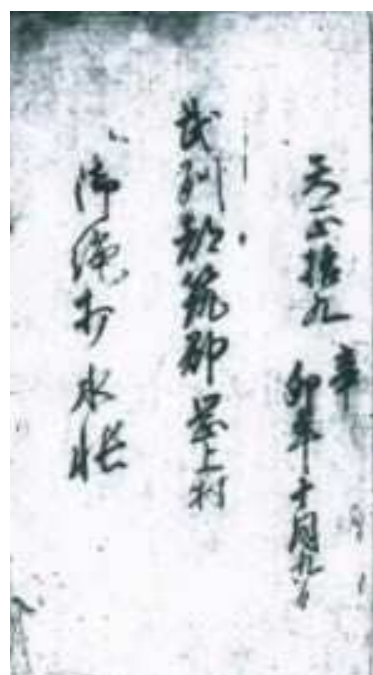
参加者：75名

1 川崎市域最古の検地帳

近世期、市域の各村々で検地がおこなわれたが、岡上村の検地帳「天正19(1581)年、武州都筑郡岡上村御縄打水帳」が現存する最古の記録である。

この記録によれば、岡上村の全耕地面積の40%が水田、60%が畑であった。自分では耕作していなかった地主である「分付主^{ぶんつけぬし}」は小作農民の抱え主であったが、その一人織部氏の所有地は多く、中世以来の有力百姓だったのではないかと推察される。

天正の検地帳とやはり近世岡上村の基本資料である「慶応4(1868)年、村差出明細帳下案」を比較して見ると、村の耕地面積(37町7反余)、戸数(50～55戸)とも江戸時代をとおしてほとんど変化なく推移したことがわかる。



天正19年 岡上村御縄打水帳

2 近代の岡上 - なぜ川崎市と合併したのか? -

岡上は鶴見川に向かって谷戸が開いた地形なので、北側(現在の町田市側)との交流は深く、南側(現在の横浜市側)は入会地でもあり閉ざされていた。

明治22(1889)年の市制・町村制によって、周辺の村々の統合が進むなか、岡上村は一村独立を続け、大正2(1913)年には柿生村と「柿生村外^{ほか}一ヶ村組合」を組織化し、横浜市への編入に進む道(飛び地にならない道)は一貫してとらなかった。

昭和14(1939)年、岡上村は川崎市と合併する。「柿生・岡上両村合併理由書」には、柿生村との古くからのつながり、小田急線・南武線の存在、主な販路が川崎市であるという産業・経済的理由などがあげられている。

3 飛び地岡上

飛び地が生じる原因は河川の流路変更などいろいろあり、珍しいことではない。岡上の興味深い点は、通常の内陸にあって飛び地になっているところにある。

第4回 幕末期における岡上村の負担 ～官軍御用～

日 時：平成25年12月6日(金)13:30～15:30

場 所：岡上分館 集会室

講 師：川崎市市民ミュージアム学芸員 望月一樹 氏

参加者：41名

1 江戸時代の村の負担

年貢は豊作不作にかかわらずに納めなくてはならず、負担は大きかった。他に川濠い・道普請などの労役(夫役)、宿駅に人馬徴発を課した助郷役があったが、さらに岡上村では領主大久保家の出世や婚礼などの際に「先納金(年貢前払い)」が加わった。19世紀にはこの先納金要求がたびたびあり、困った村人は大久保家の屋敷に出向く門訴の行動を起こした。このときの車型連判状が保存されている。



車型連判状 (文化2(1805)年)

2 岡上村の助郷負担

「慶応4(1868)年、村差出明細帳下案」には、小野路村の常助郷、木曽村・原町田村の加助郷、幕末には20キロ以上も離れた保土ヶ谷宿の新助郷(日数限定)に指定されていたことが記されている。

小野路村は元和3(1683)年、家康の遺骸を移遷する際のルート(御損櫃 御成道)に入ったこと^{おそんひつおなりみち}から人馬供出が命じられ、その後大山街道として賑わって正徳期に宿場(継立村)に指^{つぎたてむら}定された。

3 幕末の助郷負担

幕末の動乱は大規模な通行と物資輸送をもたらし、広範囲に臨時の助郷を課することになる。

岡上村梶家文書には、慶応元年の第2次長州征討にかかわり保土ヶ谷宿関連の文書が2通残っている。いずれも雇賃の受取状であり、人馬の提供ではなくそれ相当の金を支払うことで代わりとしたことがわかる。慶応元年5～6月の2ヶ月で合計20両を支払っている。(1両をおよそ5～6万円とした場合、100～120万円ほどの負担であったと推察される)

明治5年8月31日をもってすべての助郷制度は廃止となったが、岡上村に限らず各村落にとって大きな負担であった助郷は、幕府が倒れていく大きな要因の一つともなった。

第5回 室町・戦国時代の王禅寺と東光院

日 時：平成26年2月7日（金）13：30～15：30

場 所：岡上分館 集会室

講 師：郷土史研究家 ^{なかにしもちゆき} 中西 望介 氏

参加者：46名



鶴見川流域わけても上～中流域における「東光院」と「王禅寺」の役割は大きいものがあった。その歴史的文化財的価値を資料に基づいて考察した。

1 鶴見川流域では真言宗の寺が多い

仏教は室町・戦国時代になってようやく庶民に普及した。日本における仏教の歴史を概観すると、仏教が普及する過程では、現世利益、呪術、^{げん}験を期待され、民俗信仰との融合が求められた。真言宗は^{こうみょうしんごん}光明真言を唱え、罪障消滅・富貴長寿・極楽往生という三つの願いがかなうとされた。

2 東光院、王禅寺ともに寺領を有し、真言宗の寺院を束ねる地域の中本寺としての重要な役割を持っていた

『新編武蔵風土記稿』によれば、東光院は15石の寺領を有し、非常に大きい本堂、さらに新義真言宗の本寺京都醍醐三宝院の直末であった。また寺の開山開基がわかっている寺が少ない中で、東光院は世代譜によって代々の住職十一代の歴史がわかっている。鎌倉時代後期から南北朝時代にすでに東光院があったことも明らかである。



東光院本堂

また王禅寺は江戸時代において寺領30石、『北条氏所領役帳』においては50貫文とあり厚遇されている。東光院は天正19(1591)年の岡上村検地帳によれば生産力のあるよい土地を有していることが明らかになっている。両寺とも地域に多くの末寺・門徒を持っていた。

3 室町・戦国時代、この地域で活躍した真言宗の学僧・^{いんゆう}印融※

印融は東光院と王禅寺にも関わる重要な僧である。『續群書類従』巻八四三【三宝院伝法血脈】では東光院・王禅寺において^{あじやう}阿闍梨によって^{でんぼうかんじょう}伝法灌頂が行われ多くの弟子に法を授けたことが記されている。

この時代、寺院が知識の最先端であった。（※ 印融は関東で著作活動と弟子の養成に邁進し、その遺業は後に、弘法大師空海の再来とまで言われる）

4 板碑に記されている光明真言

川崎横浜地域の板碑に光明真言が記されているものがある時期に集中している。麻生区の黒川の板碑-寛正5(1464)年-には梵字で光明真言を刻している。これらからも印融が活躍した室町・戦国時代に光明真言の普及活動がされていたことがわかり、東光院、王禅寺の役割も大きかったと言える。



印融 法印像
三會寺所蔵
(横浜市歴史博物館
ホームページより)

特別講座 映像でたどる岡上の暮らしの歴史

日 時：平成25年10月4日（金）13：30～15：45

場 所：岡上分館 集会室

語り手：宮野 薫さん、鳥海 輝治さん

参加者：48名



宮野 薫さん



鳥海 輝治さん

岡上に関する3本の映像を視聴した後、岡上の宮野 薫さん、鳥海 輝治さんから具体的な話をお聞きした。

1 「神奈川再発見 岡上風土記 川崎 飛び地」

（企画 神奈川県教育委員会、制作 TVK
協力 神奈川ニュース映像協会）

昭和51年頃の岡上の様子の映像である。子どもたちが家々を回り、正月の松飾りやしめ縄を集めてご祝儀をもらうどんどこ焼きの光景が紹介された。

（＊現在岡上では3地区で新年恒例のどんどこ焼きが行なわれている。）



子どもたちによるどんどこ焼きの材料集め

2 「小さな旅 柿の里 秋たけたり」

（平成8年 NHK放送）

柿生駅から王禅寺、黒川地区の柿畑、岡上などの柿のある風景の映像であった。禅寺丸柿は約600年前に王禅寺の山中で発見され、多摩丘陵全体に広がったと言われている。甘柿は珍しく貴重なものであった。また、禅寺丸柿保存会初代会長として宮野薫氏が登場している。



大正時代の柿出荷記録

3 おはよう日本

「たわわに実った“日本最古”の甘柿禅寺丸柿」

（平成12年 NHK放送）

朝のニュース内で宮野薫さん宅から生中継されたもの。



宮野薫さん宅からの生中継

4 宮野さん、鳥海さんのお話

「岡上では戦争中を除いて昭和53年まで共同出荷していた。戦後はとても良く売れ、昭和24年の初荷は一箱1,000円という高値であった。40年代は年平均3,000箱を出荷。出荷先は、淀橋、両国、船橋、川崎だった。」

なお、休憩時間に禅寺丸柿が参加者にふるまわれた。

岡上のどんと焼き



谷戸地区



西町会・川井田地区



上・下地区